



学校図書館サポートキャラクター
としょえもん

としょえもん

学校図書館サポートセンター広報紙



令和3年度
第2号

ほかの学校の図書委員会は何をしているの？

学校図書館から世界を見つめる

みなみ野中学校昼休みの学校図書館には1年生から3年生の縦割り当番、計6人の図書委員が集合します。カウンター業務・書架整理・新聞整理と、仕事内容が3つに分かれていて、学年ごとに、当日の役割を決めています。みなみ野中学校は、利用者数が多く、カウンター2名はフル回転で貸出・返却を行い、当番日記をつけます。書架整理の2名は、はたきを持ち、ほこりを取りながら、書架の乱れを整理します。返却された本を書架に戻す作業も2人の仕事。返却本が多いので、とても忙しいのです。



そして、特徴的な新聞活動ですが、当日の新聞から、気になる記事を切り抜き、付箋に感想を書き、廊下に掲示するといった内容です。図書館では2社の新聞を置いているため、トップ記事が新聞社によって違うことを実感できます。「感想を書くのは楽しい」そうです。

取り組みを始めておよそ2年。新型コロナウイルスや2020東京オリンピックに関する記事が多く、不安な気持ち、オリンピックを楽しみにする気持ち、現状の日本の政治への疑問や改善を求める意見が書かれています。また、バイデン政権、アフガニスタン問題、世界で多発するテロ事件にも言及しています。15分という限られた時間の中で、記事を見つけ意見を述べる。みなみ野中学校の図書委員のまなざしは、しっかりと日本、世界を見つめ、「どうしたらよいか？」を考えています。

図書館前の廊下は記事と生徒の想いでいっぱい。体育館につながる通路では、体育授業の生徒が立ち止まり記事を読んで行きます。

(K.N.)

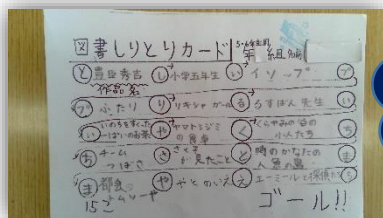
(写真右:当番の仕事役割分担を示す表／写真左:図書委員がコメントを付けた記事)



令和3年度 第5回調べる学習コンクール

今年度もたくさんのご応募ありがとうございました。審査結果は「としょえもん」第3号で！





こんなことも
しています！
図書委員会

「本のタイトルでしりとり」

別所小学校の図書委員会では、6月から7月にかけて行われた読書旬間(じゅんかん)中に、本校独自の給食コラボと「図書しりとり」を実施しました。給食コラボは児童集会で『たまたまタヌキ』(内田麟太郎/文、高畠那生/絵、佼成出版社)の読み聞かせをリモートで行いました。そして、本に出てきた料理(天丼)が実際の給食のメニューに登場しました。

図書しりとりは、本のタイトルをしりとりでつないでいき、カードに書いていきます。低学年は5冊、中学年は10冊、高学年は15冊分つながれば完成。図書委員作成のしおりをもらうことができます。最初は図書館の「と」から始め、みんな夢中で本を探していました。高学年は平仮名が多くて探しやすい絵本だけでなく、著者名順で並んでいる文学の棚からも本を見つけました。(上写真:高学年のカード。15冊つながりました)

みんなに図書室に来てもらいたい、いろいろな本を手にとってほしいという図書委員の発案で実施された図書しりとり。いつもは読まないような本が見つかる楽しさもあったようです。

(Y.H.)

校長先生！ おすすめの本は何ですか？

『モヤモヤそうだんクリニック』
池谷裕二・文／ヨシタケシンスケ・絵
NHK 出版

「頭がよくなるくすりはありますか？」「心って人間のどこにあるんですか？」256名の小学生から寄せられた「なぜ？」に、脳研究の第一人者池谷裕二さんと、人気絵本作家ヨシタケシンスケさんが“科学”と“ユーモア”で向き合います。「心の中がザワザワしたら、1日1回就寝前におひきください。」という帯の言葉にひかれて本屋さんで手に取りましたが、どの回答もスッキリ、納得！悩める心によく効きます。ぜひ親子で一緒に読むことをお勧めします。生きることが面白くなる本です。

(高倉小学校校長 田中順子)



図書委員会イベント「BOOK 診断」

第五中学校の図書委員会では、前期・後期それぞれイベントを行い、一人でも多くの人に学校図書館を利用してもらうと活動しています。内容はどうするか、毎回白熱した話し合いが行われます。

前期のイベントでは、自分にぴったりの本がわかる「BOOK 診断～あなたにおすすめの本はこれだ！」を行いました。図書委員が5つのグループに分かれておすすめの本を決め、それぞれの本につながる質問を考えました。「無人島に流されたら？ A 水・食料の確保 B 脱出方法を考える」というような質問からスタートし、A や B を選んで進んで行くと、最後に「あなたにぴったりの本」が診断されます。

質問とおすすめの本を模造紙に書いて、各学年のフロアと図書館前の廊下に貼りました。図書館内には特設コーナーを作り、診断された本を目につく場所に展示して手取りやすいように工夫しました。たくさんの

生徒がフロアに立ち止まって楽しむ姿が印象的でした。(Y.K.) (上写真:5種類あるBook 診断の一例)



『おおきな木』(原題:The Giving Tree)
シェル・シルヴァスタイン 作・絵／ほんだきんいちろう 訳
／篠崎書林

この絵本に出会ったのは40年前。北海道の学生の一人旅。あるユースホステル(若者のための宿)に泊まった時、夕食後の読み聞かせで、この絵本に、出会いました。「ちびっこ」と「1本のリンゴの木」の物語。「ちびっこ」は、成長とともに「リンゴの木」にいろいろな「願いごと」をします。次々と新しい「願いごと」をかなえ続けます。その中で「きはそれでうれしかった…だけどそれはほんとうかな」と問いかけます。小学生

は小学生なりに、中学生は中学生なりに、大人は大人なりに、その時々でいろいろなことを考えさせられる絵本です。

(横川中学校校長 大坂崇)

(現在は村上春樹訳であすなろ書房から出版されています)



発行:令和3年(2021年)12月10日



八王子市教育委員会教育指導課
学校図書館サポートセンター

問い合わせ:042-664-1193